1. 国際シンポジウム 文化としてのゴミ
Waste as Culture, the Culture of Waste

2020年1月25日、26日

会場：名古屋大学文系総合館7階カンファレンスホール
主催：名古屋大学大学院人文学研究科附属 超域文化社会センター
後援：公益財団法人大幸財団、名古屋大学国際会議助成金、名古屋大学ジョイント・ディグリープログラム助成金

私たちの生活と切り離せないものでありながら忌避の対象とされるゴミは、文化、社会、経済、政治、科学技術、環境が複雑に絡み合う結節点であり、豊かさと貧しさ、必要性と不必要性、生産性と無駄、生産と消費といった矛盾や葛藤を併せ持っています。本シンポジウム「文化としてのゴミ」の目的は、人文社会科学の異なる領域の研究者が一堂に会し、近現代の文化・社会におけるゴミの多様なあり方と意味を歴史的・理論的に議論することです。2日間にわたる研究発表や討論を通して、日常的実践からグローバルな想像に至るまでの、身体的な経験や意味作用から社会的制度や公共的な活動に至るまでの、さらには人間から非人間に至るまでの、文化・社会・環境のさまざまな側面に関わるゴミの問題について新たな展望が示されました。また、初日には、性規範を逸脱する（とされる）性に着目し、それらのあり方を問い直すことを目的とし、新世代パネル「クィア的再考の実践――映画、漫画、文学」を開催しました。

1月25日［土］

◉新世代パネル ［13:30–15:30］

【クィア的再考の実践――映画、漫画、文学】
企画：游書昱（名古屋大学）、梶川瑛里（名古屋大学）

加藤健太（早稲田大学）
「変態性欲にもとづく行為」――旧映倫時代の日本映画におけるシシー・キャラクター

孫旻喬（名古屋大学）
手塚治虫のストーリーマンガにみるクイアな身体

門千行（名古屋大学）
二重ルールの世界――『西遊記』改編コメディー映画におけるクィア問題

ディスカッサント：久保豊（早稲田大学）
司会：梶川瑛里（名古屋大学）

◉セッション 1 ［15:45–18:15］
【日常生活とゴミ文化】

孟悦（トロント大学）
「無用」——現代中国環境人文学の批評的モチーフ

胡嘉明（香港中文大学）
プラスチックの都市生活を啜る——中国茶、若者の消費、プラスチックゴミ

ネイスン・ホプソン（名古屋大学）
災害のためのレシピ——戦後日本における食とゴミ

ディスカッサント：馬然（名古屋大学）
司会：長山智香子（名古屋大学）

1月26日［日］

◉セッション 2 ［9:30–12:00］
【ゴミへの（ポスト）人文学的アプローチ】

英子・丸子・シナワ（ウィリアムズ大学）
主観的観念、社会的鏡像、物質的現実としてのゴミ——歴史的アプローチ

カール・スクーノヴァー（ウォリック大学）
汚染の映像——映画とゴミ管理の映画的手段

芳賀浩一（城西国際大学）
瓦礫、ゴミ、放射能——ポスト3.11文学における廃棄物のエージェンシー

ディスカッサント：小川翔太（名古屋大学）
司会：日比嘉高（名古屋大学）

◉セッション 3 ［13:15–15:45］
【放射性廃棄物の現実と想像】

土屋雄一郎（京都教育大学）
NIMBYを争点とした環境紛争と合意形成

猪瀬浩平（明治学院大学）
灰の記憶、ごみの歴史——戦後から原発事故まで

藤木秀朗（名古屋大学）
自然化された不均衡な地球——放射性廃棄物のドキュメンタリー的想像力

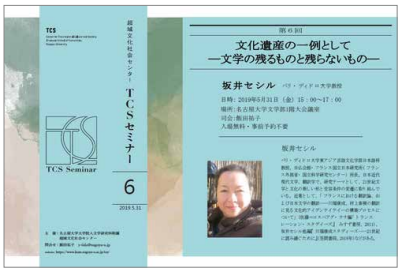
ディスカッサント：青木聡子（名古屋大学）
司会：飯田祐子（名古屋大学）

◉総合討論 ［16:00–18:00］
司会：日比嘉高（名古屋大学）

2. 超域文化社会センターセミナー

第5回
2019年4月22日
「方法としてのトランスアジア」

講師：岩渕功一（モナシュ大学教授）
司会：飯田祐子（名古屋大学教授）



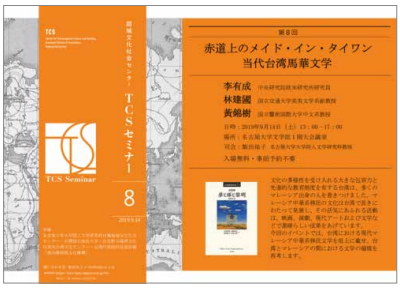
第6回
2019年5月31日
「文化遺産の一例として—文学の残るものと残らないもの—」

講師：坂井セシル（パリ・ディドロ大学教授）
司会：飯田祐子（名古屋大学教授）

第7回（アソシエイト企画3）
2019年7月26日
「〈クィア〉に読む、〈クィア〉を読む
—村田沙耶香『トリプル』を中心に—」

講師：黒岩裕市（フェリス女学院大学ほか非常勤講師）
司会：張瑋容（名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ研究員）

セミナーの詳細は、本号の研究ノート「〈クィア〉に読む、〈クィア〉を読む——村田沙耶香『トリプル』を中心に」（168–173p）をご覧ください。



第8回
2019年9月14日

「赤道上のメイド・イン・タイワン　当代台湾馬華文学」

講師：李有成（中央研究院欧米研究所研究員）
　　林建國（国立交通大学英美文学系副教授）
　　黄錦樹（国立暨南国際大学中文系教授）
司会：飯田祐子（名古屋大学教授）

第9回（アソシエイト企画4）
2019年10月3日

「木村文洋監督作『息衝く』上映」

司会：加島正浩（名古屋大学大学院）
※木村文洋監督をお招きして『息衝く』の上映とディスカッションを行いました。

セミナーの詳細は、本号のレヴュー「東日本大震災以後の世界を「生きる」とは?――映画『息衝く』（木村文洋、2018）」（193–195p）をご覧ください。

第10回
2019年11月29日

「エレーヌ・シクスーを今読む意味：世界や日本の現状を見る時、シクスーの主張は今でも有効か――ジェンダー、分断、二項対立――」

講師：松本伊瑳子（名古屋大学名誉教授）
司会：星野幸代（名古屋大学教授）

3. 第6回名古屋大学・台湾大学大学院生研究交流会「人文学でまなざす日本・東アジア」

2019年7月6日

場所：名古屋大学文系総合館7階カンファレンスホール
共催：名古屋大学超域文化社会センター・台湾大学日本研究中心

◉研究発表１　司会：池内敏（名古屋大学人文学研究科教授）

イゴル・コロチンスキ（名古屋大学日本史学博士課程）
「琉球国役人から道之島役人へ」
コメンテーター：田世民（台湾大学日本語文学系副教授）

謝奇廷（台灣大學日本語文學系碩士班）
「江戸後期の風水観――『風水秘録』の視点から」
コメンテーター：胡潔（名古屋大学人文学研究科教授）

松本柊（名古屋大学日本史学修士課程）
「18世紀後期における尾州茶屋家と幕藩権力」
コメンテーター：亀田俊和（台湾大学日本語文学系助理教授）

◉研究発表２　司会：亀田俊和（台湾大学日本語文学系助理教授）

游書昱（名古屋大学日本文化学博士課程）
「田中兆子「六本指のトミー」を読む――学校、排除、クィア」
コメンテーター：長山智香子（名古屋大学人文学研究科准教授）

許瑜玶（名古屋大学映像学修士課程）
「人間動物関係学のアプローチ――台湾における動物ドキュメンタリーの現在」
コメンテーター：飯田祐子（名古屋大学人文学研究科教授）

◉研究発表3　司会：田世民（台湾大学日本語文学系副教授）

柯輝煌（東京芸術大学芸術学修士課程）
「植民地における書道史の成立――1931年の『朝鮮書道菁華』を中心に」
コメンテーター：池内敏（名古屋大学人文学研究科教授）

吉村宥希（名古屋大学文化人類学博士課程）
「ヨーロッパの仮面をめぐる人類学的研究――スペインの祝祭における仮面の意義を中心に」
コメンテーター：小川翔太（名古屋大学人文学研究科准教授）

林塘泫（台灣大學日本語文學系碩士班）
「日本統治時代における閩粤葬祭礼俗文化の研究」
コメンテーター：星野幸代（名古屋大学人文学研究科教授）

◉研究発表4　司会：藤木秀朗（名古屋大学人文学研究科教授）

亓瑞瑤（台灣大學藝術史研究所碩士班）
「廖継春の風景画にみる「異国」と「南国」」
コメンテーター：藤木秀朗（名古屋大学人文学研究科教授）

岸川あゆみ（名古屋大学文化動態学修士課程）
「台湾イメージとは何か――『BRUTUS』台湾特集の表紙が提起した台湾表象の問題」
コメンテーター：林立萍（台湾大学日本語文学系教授）

朴根模（名古屋大学文化人類学修士課程）
「グローバリゼーション下の社会における食文化の均質化・現地化・混成化――日本社会における韓食消費のあり方を事例に」
コメンテーター：ネイスン・ホプソン（名古屋大学人文学研究科准教授）

村松俊亮（名古屋大学映像学修士課程）
「バブル崩壊後の日本映画におけるサラリーマン――身体、空間、物語」
コメンテーター：朱宇正（名古屋大学人文学研究科助教）